

---

2015年度 桃山学院大学生の  
学生生活上の諸活動に関する実態調査

---

## ■本調査について

多様化する学生の実態を把握することは、学生サービスの更なる充実に繋がるとともに、大学の自己点検・自己評価の指針として重要である。

そこで本学では、1994年より毎年1回、ポイントを絞った形で独自の学生生活実態調査を実施している。94年度は奨学金制度の改革および特に下宿生へのサポート体制の確立に向けた資料作りとして「経済状況調査」を実施し、翌95年度は和泉新キャンパス移転に伴う学生生活の環境変化およびクラブ・サークル活動、大学祭など正課外のキャンパスライフおよびイベントへの関心度を探る「課外活動に関する実態調査」を実施、また96年度は大学への登校時刻・出席コマ数から食事のとり方、趣味・嗜好品、悩み事までにいたる「個人生活」について実施した。各々の調査結果は「下宿物件の開拓」「奨学金制度の改革」「学生福利厚生等施設の建設」などに生かされたほか、「自由回答」にある様々な「声」を大学として責任をもって受け止め、それに応える機関としての「わたしの提案箱（A.C.C）制度」の実施（1998年度から発足）など、学生サービス諸施策の立案や制度改革に取り組み、一定の成果を上げてきた。

それから十数年が経過した現在、課外活動分野の調査のみならず、学生生活における正課活動の「位置づけ」から個々の諸活動にまで項目を掘り下げ、本学学生をとりまくすべての環境と動向について調査を行った。

## ■調査の概要

○調査期間：2015年12月21日（月）

○調査方法：講義時間の冒頭に出席者に用紙を配布し、記入後回収

○調査対象：月曜3時限目開講科目のうち、以下3講義を履修した学部学生915名

（内訳：経済264名、社会182名、経営166名、国際教養171名、法学部132名）

- ・博物館概論 <秋>
- ・歴史学—大日本帝國の興亡 <秋集>
- ・地域研究Ⅱ <秋集>

○有効回答者数：356名（回答率：38.9%）

○表記方法：各設問の回答結果を視覚的に把握できるよう、択一式の設問は円グラフにより割合を、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示した。

## 1 学業について

資格課程  
進路

## 2 課外活動について

クラブ・サークルへの加入状況  
クラブ・サークルの満足度  
ボランティア活動

## 3 経済・生活状況について

学費  
奨学金  
奨学金の必要度  
現在の住居  
アルバイト  
携帯電話（利用頻度や料金）

## 4 読書について

本学図書館の利用状況  
読書に要する費用（1 ヶ月）  
読書量（1 ヶ月）  
読書に費やす時間（1 日）



## 5 悩み・健康について

現在の関心事  
現在の悩み  
困ったとき、悩んだ時の相談相手  
日頃のストレス  
日頃の健康  
健康についての気遣い  
飲酒  
喫煙  
嫌煙  
睡眠時間  
食生活  
朝食

## 6 情報関連について

パソコン保有状況  
ワープロ習得状況  
パソコンの主たる利用目的  
インターネットの利用  
本学ホームページの利用  
本学情報センター自習室の利用  
本学からの情報  
本学から送信されるメール  
M-Port  
Campus Guide  
情報の確認手段

## 7 自由記述について

大学に対する要望



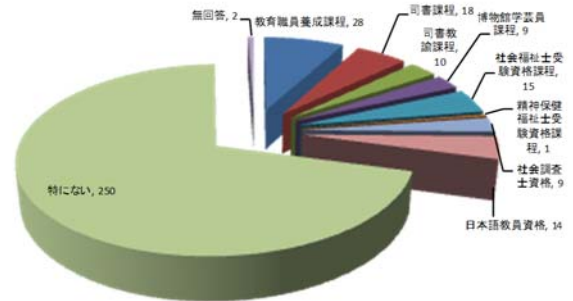
## 学業について

### Q.1 本学で一番取得したい資格課程は？

例年通り「特にない」が7割を超えるという残念な結果となった。「社会福祉士受験資格課程」、「教職員養成課程」が前回調査時より減少となった。また、「司書課程」は2008年度調査では13.7%で最も人気の高い資格課程であ

たにも関わらず、年々割合が低下し、現在は5.1%と低い割合となっている。

	取得したい資格課程	回答数	構成比
1	教育職員養成課程	28	7.9%
2	司書課程	18	5.1%
3	司書教諭課程	10	2.8%
4	博物館学芸員課程	9	2.5%
5	社会福祉士受験資格課程	15	4.2%
6	精神保健福祉士受験資格課程	1	0.3%
7	社会調査士資格	9	2.5%
8	日本語教員資格	14	3.9%
9	特にない	250	70.2%
	無回答	2	0.6%
	合計	356	100.0%



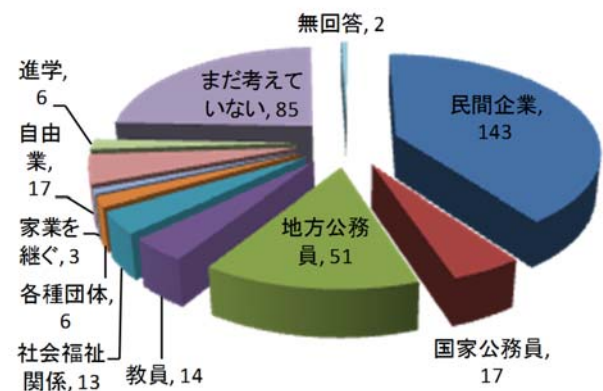
※折一式の設問は円グラフにて、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示しています。

### Q.2 卒業後の進路希望は？

前回調査時と比べ地方公務員就職希望者が4.8%増加、社会福祉関係が0.4ポイント減少と変化している。「まだ考え

ていない」が6.9ポイント減少したことは卒業後の進路について考える学生が多くなったといえるだろう。

	卒業後の進路希望	回答数	構成比
1	民間企業	143	40.1%
2	国家公務員	17	4.8%
3	地方公務員	51	14.3%
4	教員	14	3.9%
5	社会福祉関係	13	3.6%
6	各種団体	6	1.7%
7	家業を継ぐ	3	0.8%
8	自由業	17	4.8%
9	進学	6	1.7%
10	まだ考えていない	85	23.8%
	無回答	2	0.6%
	合計	357	100.0%



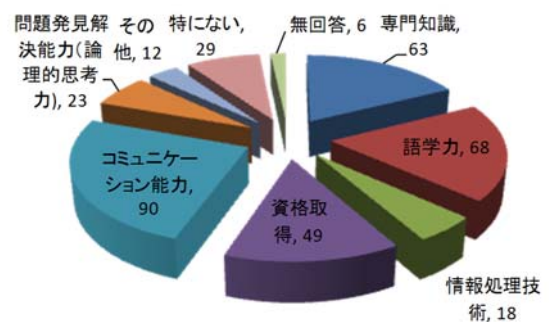
※折一式の設問は円グラフにて、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示しています。

### Q.3 自分の進路のために一番身につけたいものは？

2009年からそれまで最も割合の高かった「資格取得」を「コミュニケーション能力」が上回るようになっており、今回も同様の結果となった。昨今の就職活動においては、学業

成績や資格修得よりも、大学生活の過ごし方や採用面接を重要視する企業が多くなっていることが原因の一つと考えられる。

	自分の進路のために一番身につけたいもの	人数	構成比
1	専門知識	63	17.6%
2	語学力	68	19.0%
3	情報処理技術	18	5.0%
4	資格取得	49	13.7%
5	コミュニケーション能力	90	25.1%
6	問題発見解決能力（論理的思考力）	23	6.4%
7	その他	12	3.4%
8	特にない	29	8.1%
	無回答	6	1.7%
	合計	358	100.0%



※折一式の設問は円グラフにて、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示しています。

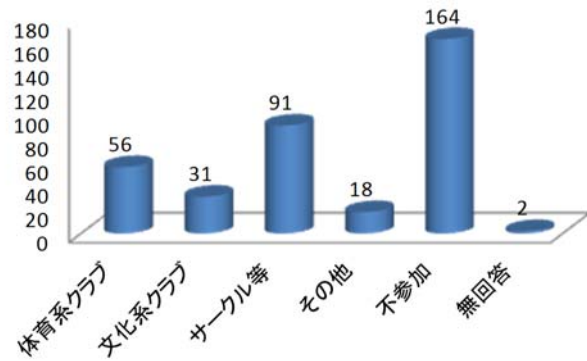
## 課外活動について

### Q.4 所属クラブはどこですか？ ※複数選択可

近年では「活動時間が多い」「上下関係が厳しい」イメージのある体育系・文化系クラブへの加入者数は減少傾向にある。

り、併せてサークル加入者数についても減少傾向にある。今回、「不参加」が最も多い回答となった。

	所属クラブ	人数
1	体育系クラブ	56
2	文化系クラブ	31
3	サークル等	91
4	その他	18
5	不参加	164
	無回答	2
合計		362

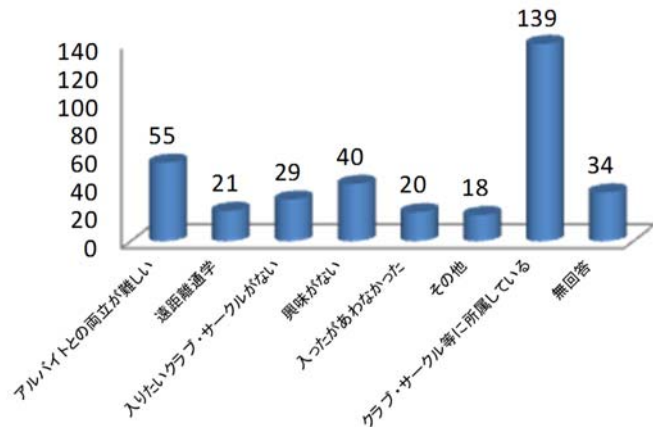


### Q.5 不参加の理由は？

最近の調査では、「アルバイトとの両立が難しい」と課外活動には興味があるにもかかわらず、経済的理由で参加でき

ない割合がやや増加傾向にある。また、「入りたいクラブ・サークルがない」が12ポイント増加した。

	不参加の理由は？	人数
1	アルバイトとの両立が難しい	55
2	遠距離通学	21
3	入りたいクラブ・サークルがない	29
4	興味がない	40
5	入ったがあわなかった	20
6	その他	18
7	クラブ・サークル等に所属している	139
	無回答	34
合計		356

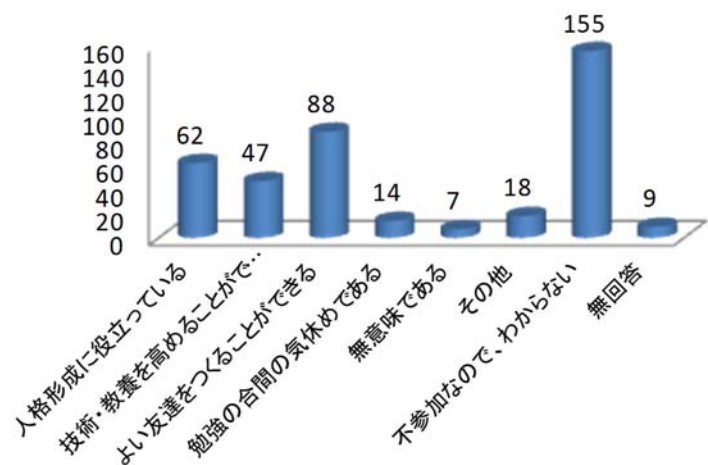


### Q.6 クラブ活動にはどんな効果があると思いますか？ ※複数選択可

前回までの調査と同様、活動自体から得られる能力向上よりも「よい友達をつくることができる」「人格形成に役立っている」などの副次的効果に満足を感じる学生が多い結果となった。言うまでも無く、クラブ・サークル活動は、多くの

学生が高めたいと感じている「コミュニケーション能力」の向上に効果的であり、課外活動への参加は学生にとって有益であるといえる。

	クラブ活動は？	人数
1	人格形成に役立っている	62
2	技術・教養を高めることができる	47
3	よい友達をつくることができる	88
4	勉強の合間の気休めである	14
5	無意味である	7
6	その他	18
7	不参加なので、わからない	155
	無回答	9
合計		400





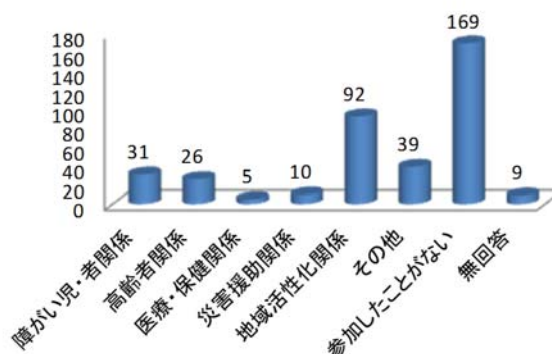
## 課外活動について

### Q.7 今までにどのようなボランティア活動に参加したことがありますか？ ※複数選択可

参加経験「有」のなかでは、昨今需要の高い「地域活性化関係」のボランティア活動が上位となった。一方「参加したことがない」学生が約半数近くを占めているので、本学のボ

ランティア活動支援室を通じ、積極的にボランティア紹介を行ってきたい。

	今までにどのようなボランティア活動に参加したことがありますか？	人数
1	障がい児・者関係	31
2	高齢者関係	26
3	医療・保健関係	5
4	災害援助関係	10
5	地域活性化関係	92
6	その他	39
7	参加したことがない	169
	無回答	9
	合計	381



※択一式の設問は円グラフにて、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示しています。

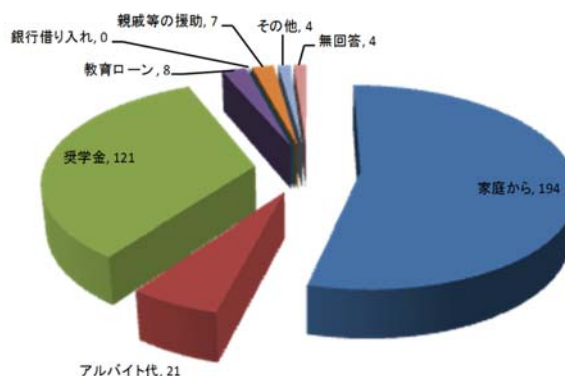
## 経済・生活状況について

### Q.8 学費納入手段として主に考えているものは何ですか？

学費支弁の手段として「奨学金」の割合が年々増加しており、2008年調査結果では24.4%であったが、今回調査では33.7%に達している。反対に「家庭から」の割合は、2008

年調査では70.4%であった割合が、今回調査では54.0%と年々減少傾向にあり、厳しい経済状況がうかがえる。

	学費納入手段として	人数	構成比
1	家庭から	194	54.0%
2	アルバイト代	21	5.8%
3	奨学金	121	33.7%
4	教育ローン	8	2.2%
5	銀行借入れ	0	0.0%
6	親戚等の援助	7	1.9%
7	その他	4	1.1%
	無回答	4	1.1%
	合計	359	100.0%



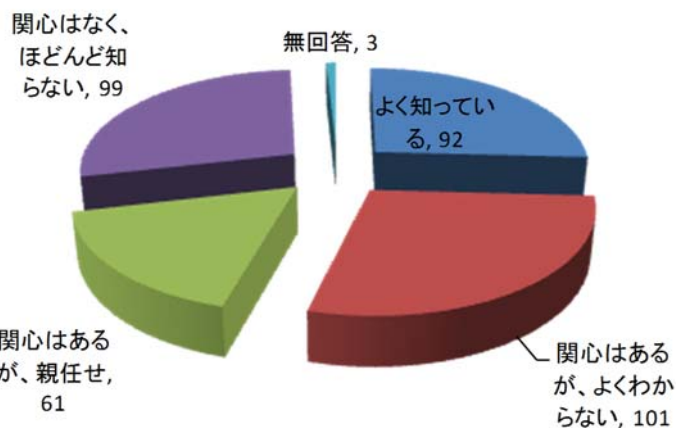
※択一式の設問は円グラフにて、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示しています。

### Q.9 本学の奨学金制度についてどの程度知っていますか？

「よく知っている」の割合が年々減少し、「関心はあるが、よくわからない」の割合が増加した。大学としては、わ

かりやすい説明とM-Port等で定期的に情報発信を行いたい。

	本学の奨学金について	人数	構成比
1	よく知っている	92	25.8%
2	関心はあるが、よくわからない	101	28.4%
3	関心はあるが、親任せ	61	17.1%
4	関心はなく、ほとんど知らない	99	27.8%
	無回答	3	0.8%
	合計	356	100.0%



※択一式の設問は円グラフにて、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示しています。

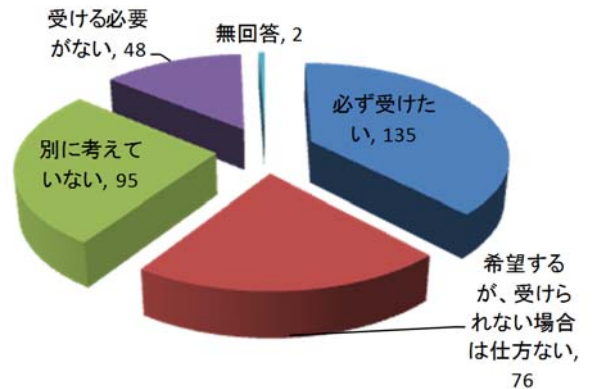
## 経済・生活状況について

### Q.10 奨学金の必要度はどのくらいですか？

奨学金については「必ず受けたい」の割合が高いのが特徴である。代表的な奨学金である日本学生支援機構奨学金については、有利子である「第二種奨学金」の採用率はほぼ100%になっている。また、学業不振などによって同奨学金

の利用ができない学生に対して本学では、民間金融機関と提携し低金利で貸与を受けられる教育ローンを紹介するなどして対応している。

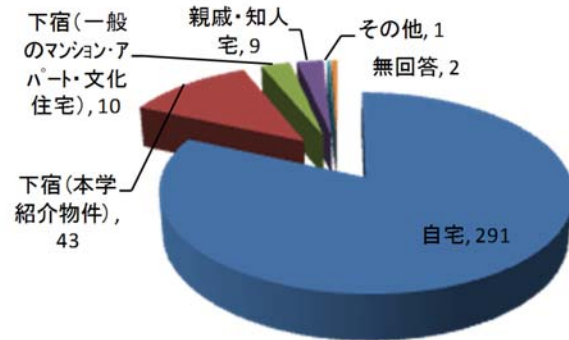
	奨学金の必要度	人数	構成比
1	必ず受けたい	135	37.9%
2	希望するが、受けられない場合は仕方ない	76	21.3%
3	別に考えていない	95	26.7%
4	受ける必要がない	48	13.5%
	無回答	2	0.6%
	合計	356	100.0%



### Q.11 現在の住居形態は何ですか？

経済的理由から下宿学生は近年減少傾向にあり、今回は15%を下回った。

	現在の住居は？	人数	構成比
1	自宅	291	81.7%
2	下宿（本学紹介物件）	43	12.1%
3	下宿（一般のマンション・アパート・文化住宅）	10	2.8%
4	親戚・知人宅	9	2.5%
5	その他	1	0.3%
	無回答	2	0.6%
	合計	356	100.0%

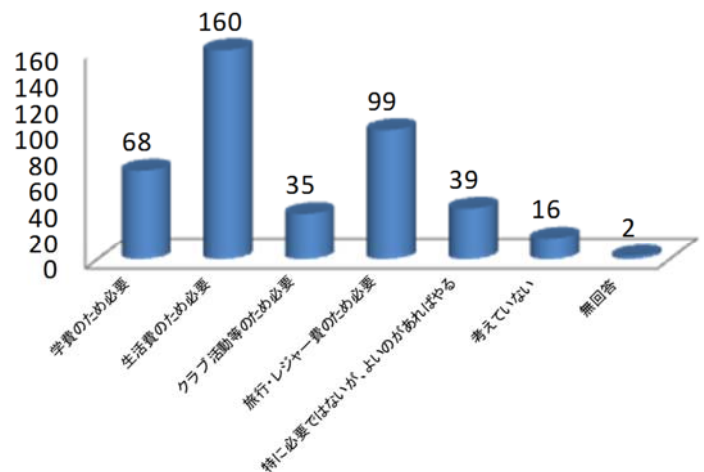


### Q.12 アルバイトは必要ですか？ ※複数回答可

アルバイトについては年々回答件数に対する「学費のため必要」の割合が増加しており、学生の厳しい経済事情が伺え

る。ただし、過度なアルバイトは学業に支障をきたす恐れがあり、注意が必要である。

	アルバイトは必要？	件数
1	学費のため必要	68
2	生活費のため必要	160
3	クラブ活動等のため必要	35
4	旅行・レジャー費のため必要	99
5	特に必要ではないが、よいがあればやる	39
6	考えていない	16
	無回答	2
	合計	419



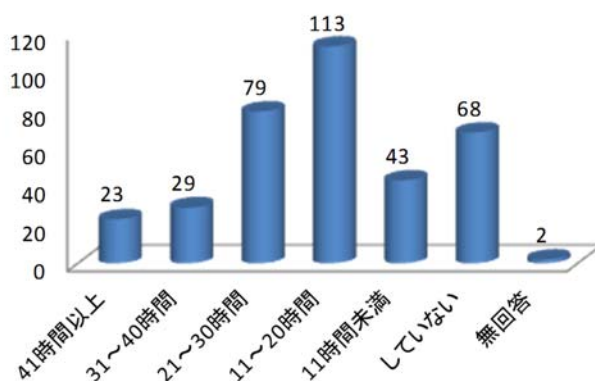


### Q.13 1週間のアルバイト時間は？

週30時間未満が半数以上の割合を占める結果となったが、週30時間超の学生も14.6%と多数存在し、学業への支

障が懸念され注意が必要である。

	1週間のアルバイト時間は？	件数
1	41時間以上	23
2	31~40時間	29
3	21~30時間	79
4	11~20時間	113
5	11時間未満	43
6	していない	68
	無回答	2
合計		357



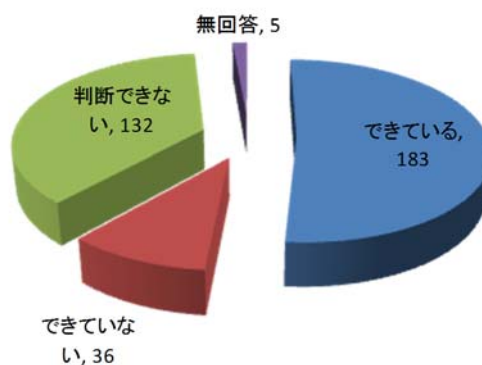
※折一式の設問は円グラフにて、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示しています。

### Q.14 学業とアルバイトの両立について

両立ができている学生が半数を超える結果となった。一方、両立できていない学生も36件と多数存在した。

「Q13」アルバイト時間との因果関係が立証できないものの、過度なアルバイトには注意が必要である。

	学業とアルバイトの両立について	人数	構成比
1	できている	183	51.4%
2	できていない	36	10.1%
3	判断できない	132	37.1%
99	無回答	5	1.4%
合計		356	100.0%



※折一式の設問は円グラフにて、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示しています。

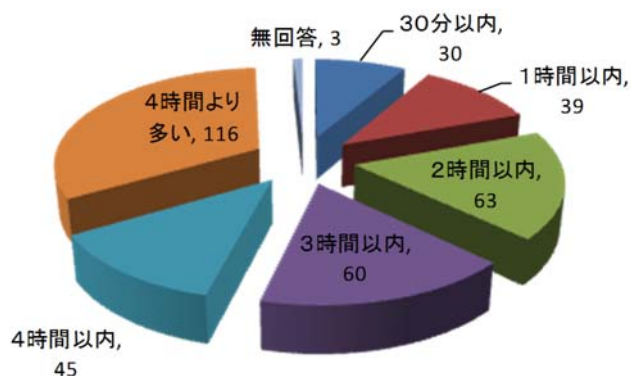
## 経済・生活状況について

### Q.15 一日の携帯電話の利用時間はどのくらいですか？（通話・メール作成時間を含む）

前回調査と比較すると、携帯電話の利用時間は「2時間以内」が2.6ポイント減少し、「4時間より多い」が5.6ポイント増加した。これはスマートフォンのアプリ機能など、ここ最近で電話やメール以外の諸機能が充実してきたことが影響

していると考えられる。

	1日の携帯電話の利用時間（通話時間やメール作成などを含む）	人数	構成比
1	30分以内	30	8.4%
2	1時間以内	39	11.0%
3	2時間以内	63	17.7%
4	3時間以内	60	16.9%
5	4時間以内	45	12.6%
6	4時間より多い	116	32.6%
	無回答	3	0.8%
合計		356	100.0%

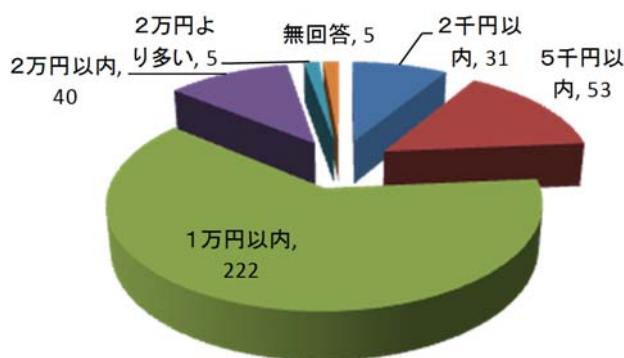


※折一式の設問は円グラフにて、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示しています。

## Q.16 1カ月の携帯電話の利用料金はいくらくらいですか？

利用料金については、2千円以内、5千円以内、2万円以内 となった。  
の項目の割合が増加し、5千円～1万円の利用者が多い結果

	1カ月の携帯電話の利用料金	人数	構成比
1	2千円以内	31	8.7%
2	5千円以内	53	14.9%
3	1万円以内	222	62.4%
4	2万円以内	40	11.2%
5	2万円より多い	5	1.4%
	無回答	5	1.4%
	合計	356	100.0%



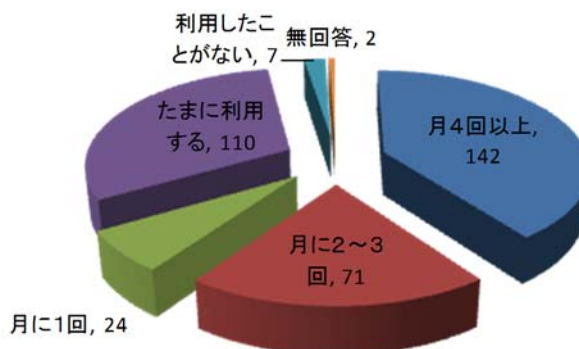
※択一式の設問は円グラフにて、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示しています。

## 読書について

### Q.17 本学の図書館をどのくらいのペースで利用しますか？

設問の「2,3,4」の項目が減少し、「月に4回以上」の項目が前回調査時より18.4ポイントも増加したことから、本学学生の図書館の利用頻度は増加傾向にあるといえるだろう。

	本学図書館の利用は？	人数	構成比
1	月4回以上	142	39.9%
2	月に2～3回	71	19.9%
3	月に1回	24	6.7%
4	たまに利用する	110	30.9%
5	利用したことがない	7	2.0%
	無回答	2	0.6%
	合計	356	100.0%



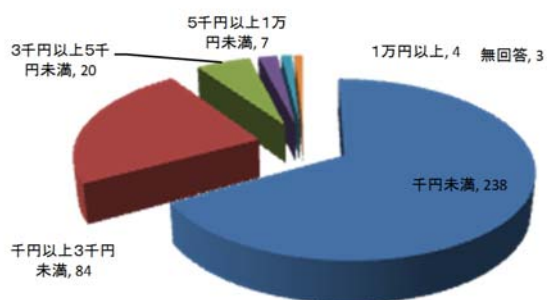
※択一式の設問は円グラフにて、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示しています。

## 読書について

### Q.18 一カ月の読書に要する費用はいくらですか？

前回調査に比べ「千円以上3万円未満」の割合が52ポイント増加し、その他の全ての項目でほぼ同水準となる結果となった。

	読書に要する費用は？（1ヶ月）	人数	構成比
1	千円未満	238	66.9%
2	千円以上3千円未満	84	23.6%
3	3千円以上5千円未満	20	5.6%
4	5千円以上1万円未満	7	2.0%
5	1万円以上	4	1.1%
	無回答	3	0.8%
	合計	356	100.0%

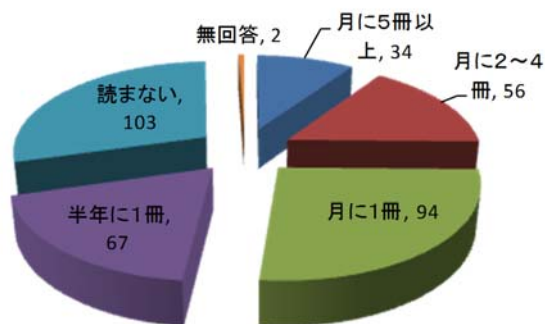


※択一式の設問は円グラフにて、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示しています。

## Q.19 本を読むペースはどのくらいですか？

「1,2,3」の項目が増加し、「読まない」の項目が2.1%減少した。Q.17図書館利用頻度とQ.18の読書に要する費用、この2つが増加したことが要因と考えられる。

	本をどのくらい読みますか。	人数	構成比
1	月に5冊以上	34	9.6%
2	月に2～4冊	56	15.7%
3	月に1冊	94	26.4%
4	半年に1冊	67	18.8%
5	読まない	103	28.9%
	無回答	2	0.6%
	合計	356	100.0%



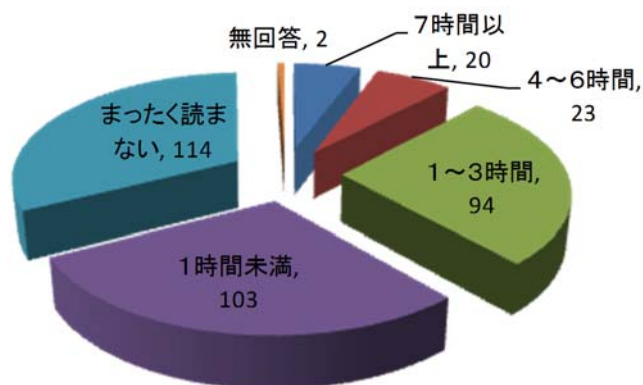
※折一式の設問は円グラフにて、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示しています。

## Q.20 一日に読書に費やす時間はどのくらいですか？

読書に費やす時間については、「1～3時間」、「まったく読まない」が減少し、「4～6時間」以外の項目が増加した。これまでの問いからもあるように、全体的に本を読むペース、時間や費用などが前回調査時より増加傾向にあると

いえるだろう。

	読書に費やす時間は？（1日）	人数	構成比
1	7時間以上	20	5.6%
2	4～6時間	23	6.5%
3	1～3時間	94	26.4%
4	1時間未満	103	28.9%
5	まったく読まない	114	32.0%
	無回答	2	0.6%
	合計	356	100.0%



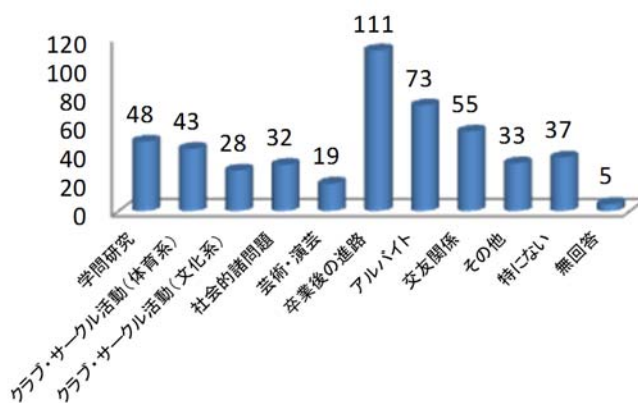
※折一式の設問は円グラフにて、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示しています。

## 悩み・健康について

### Q.21 現在の関心毎は何ですか？ ※複数回答可

現在の関心事については、前回調査までと同様に「卒業後の進路」の回答数が最も多く、「アルバイト」「交友関係」がそれに続いた。

	現在の関心事は？	人数
1	学問研究	48
2	クラブ・サークル活動（体育系）	43
3	クラブ・サークル活動（文化系）	28
4	社会的諸問題	32
5	芸術・演芸	19
6	卒業後の進路	111
7	アルバイト	73
8	交友関係	55
9	その他	33
10	特にない	37
	無回答	5
	合計	484



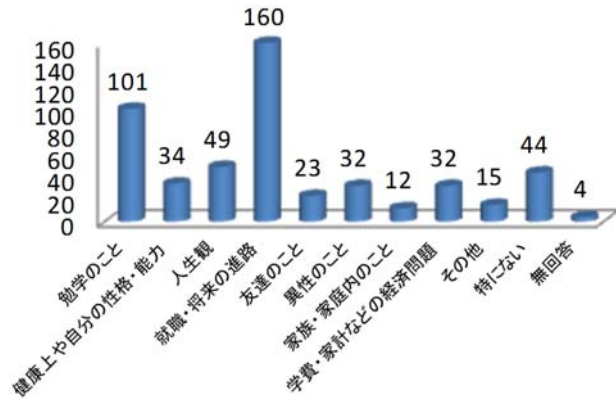
※折一式の設問は円グラフにて、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示しています。

## Q.22 今悩んでいることはありますか？ ※複数回答可

前回までの調査と同様に「就職・将来の進路」の回答数が最も多くなった。進路については高い関心項目であると同時に、多くの学生にとって悩みの種となっているようである。また2013年4月より「学習支援センター」が教室棟1号

館に設置され、「勉強」に関する相談窓口の充実化を図っている。

現在の悩みは？	人数
1 勉強のこと	101
2 健康上や自分の性格・能力	34
3 人生観	49
4 就職・将来の進路	160
5 友達のこと	23
6 異性のこと	32
7 家族・家庭内のこと	12
8 学費・家計などの経済問題	32
9 その他	15
10 特になし	44
無回答	4
合計	506



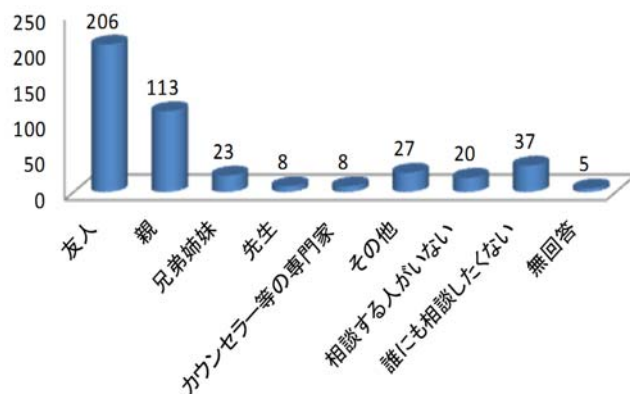
※択一式の設問は円グラフにて、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示しています。

## Q.23 困ったとき、悩んだ時は誰に相談しますか？ ※複数回答可

「友人」が最も多く、「親」が続くという、例年とほぼ同様の結果となった。本学では学生相談室の設置をはじめ、「桃山学院大学健康相談24時」などの電話による健康・メ

ンタル相談を24時間行えるようにするなど、学生相談の体制を整えているが、「カウンセラー等の専門家」に相談する人数は多くないようである。

困ったとき、悩んだ時の相談相手は？	人数
1 友人	206
2 親	113
3 兄弟姉妹	23
4 先生	8
5 カウンセラー等の専門家	8
6 その他	27
7 相談する人がいない	20
8 誰にも相談したくない	37
無回答	5
合計	447



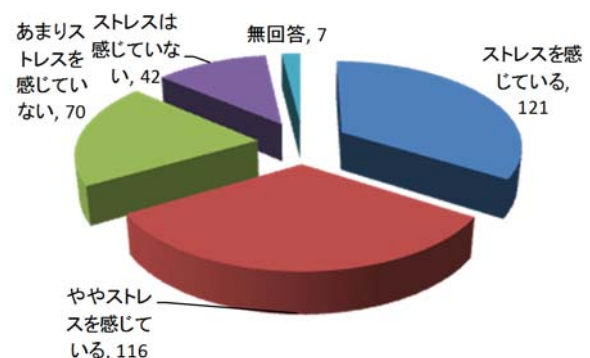
※択一式の設問は円グラフにて、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示しています。

## 悩み・健康について

### Q.24 日頃ストレスを感じますか？

今回調査でも「ストレスを感じている」「ややストレスを感じている」の合計が66.6%と、高い割合となっている。常日頃からストレスを感じている分、Q23のとおり身近な相談相手が重要となっている。

日頃のストレスについて	人数	構成比
1 ストレスを感じている	121	34.0%
2 ややストレスを感じている	116	32.6%
3 あまりストレスを感じていない	70	19.7%
4 ストレスは感じていない	42	11.8%
無回答	7	2.0%
合計	356	100.0%



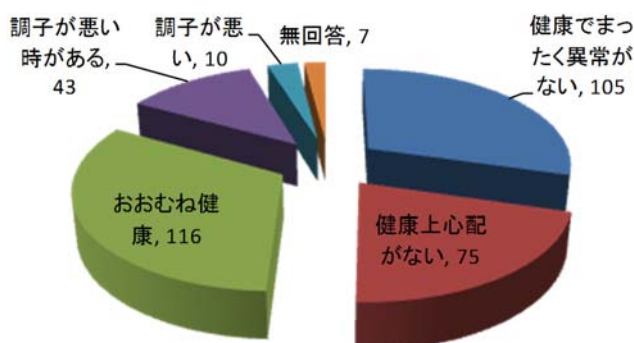
※択一式の設問は円グラフにて、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示しています。



## Q.25 自分の健康状態をどのように感じていますか？

前回までと大きな変化は見られない。「おおむね健康」の割合が32.6%と最も高く、「健康でまったく異常がない」「健康上心配がない」と合計すると、8割以上の学生は健康上特に問題はないと捉えているようである。

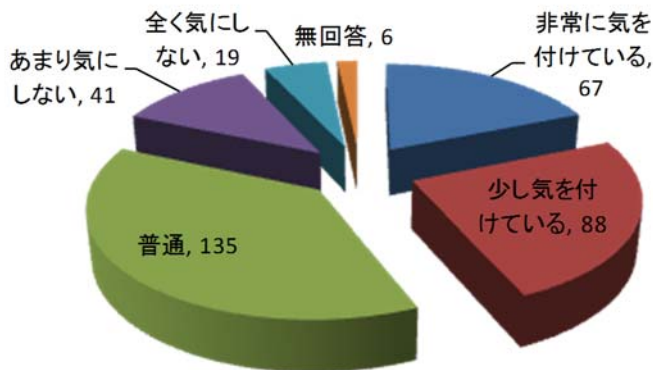
	日頃の健康について	人数	構成比
1	健康でまったく異常がない	105	29.5%
2	健康上心配がない	75	21.1%
3	おおむね健康	116	32.6%
4	調子が悪い時がある	43	12.1%
5	調子が悪い	10	2.8%
	無回答	7	2.0%
	合計	356	100.0%



## Q.26 自分の健康を気遣っていますか？

「普通」の割合が高いが、前回調査時と比べると「非常に気をつけている」の割合が0.6ポイント減少となった。「少し気をつけている」の割合が8.6ポイント増加した。「少し気をつけている」の割合が3.9ポイント減少、「あまり気にしない」

	健康についての気遣いは？	人数	構成比
1	非常に気をつけている	67	18.8%
2	少し気をつけている	88	24.7%
3	普通	135	37.9%
4	あまり気にしない	41	11.5%
5	全く気にしない	19	5.3%
	無回答	6	1.7%
	合計	356	100.0%



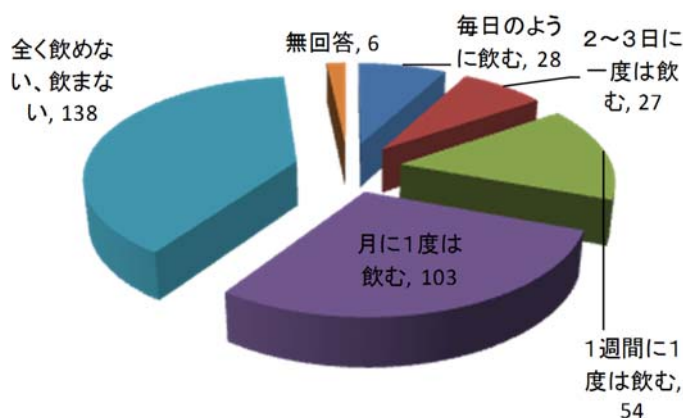
※択一式の設問は円グラフにて、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示しています。

## 悩み・健康について

### Q.27 普段どのくらいお酒を飲みますか？

例年の調査同様、「月に1度は飲む」と「全く飲めない、飲まない」の割合が高く、日常的に飲酒を行う学生は少ないことが分かる。大学生活は多くの学生にとって、初めて飲酒の機会に触れる時であり、正しい飲酒の知識と、自身にとっての適切な量を把握することが大切である。

	飲酒について	人数	構成比
1	毎日のように飲む	28	7.9%
2	2～3日に一度は飲む	27	7.6%
3	1週間に1度は飲む	54	15.2%
4	月に1度は飲む	103	28.9%
5	全く飲めない、飲まない	138	38.8%
	無回答	6	1.7%
	合計	356	100.0%



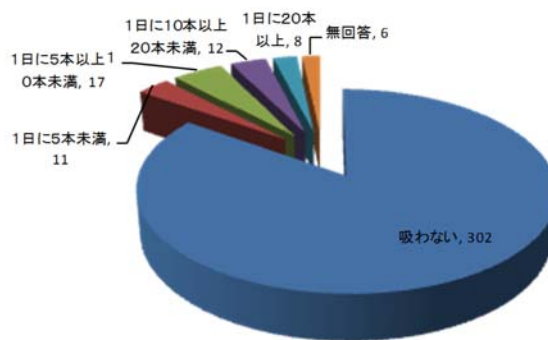
※択一式の設問は円グラフにて、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示しています。

### Q.28 普段どのくらい煙草を吸いますか？

前回までの調査に引き続き、非喫煙者の割合が84.8%と大半を占めた。喫煙はこれまで健康被害が大きくクローズアップされてきた。大学としては今後も、喫煙がもたらす影

響について啓発を続けていくべきであろう。

喫煙について		人数	構成比
1	吸わない	302	84.8%
2	1日に5本未満	11	3.1%
3	1日に5本以上10本未満	17	4.8%
4	1日に10本以上20本未満	12	3.4%
5	1日に20本以上	8	2.2%
	無回答	6	1.7%
合計		356	100.0%



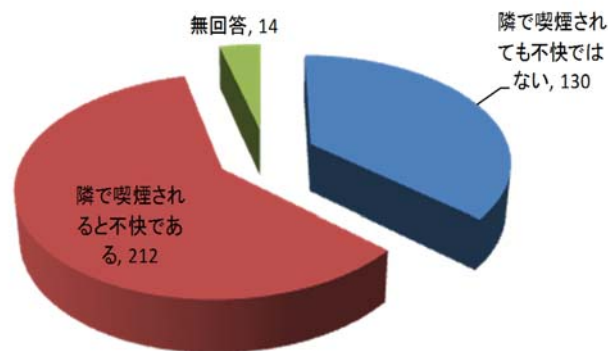
※択一式の設問は円グラフにて、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示しています。

### Q.29 指定場所以外での喫煙についてどう思いますか？

本設問も前回調査とほぼ同じで、「隣で喫煙される不快である」が59.6%と過半数を占めた。本項目は、指定場所以外での喫煙に関する嫌煙調査であり、他のアンケート調査でも例年注意喚起を行って欲しい旨の意見が多く寄せられる。

今後も喫煙マナーキャンペーンを継続実施し、全ての学生が快適に過ごせるキャンパスを構築していきたい。

嫌煙について		人数	構成比
1	隣で喫煙されても不快ではない	130	36.5%
2	隣で喫煙されると不快である	212	59.6%
	無回答	14	3.9%
合計		356	100.0%

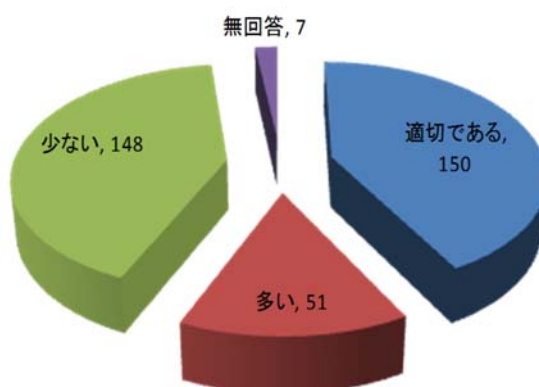


※択一式の設問は円グラフにて、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示しています。

### Q.30 学内喫煙スペースの数についてどう思いますか？

今年度から追加した項である。これを見るとわかるように「適切である」と「少ない」で意見が分かれた。今後スペースの追加や設置場所についての検討が必要になるだろう。

学内喫煙スペースの数について		人数	構成比
1	適切である	150	42.1%
2	多い	51	14.3%
3	少ない	148	41.6%
	無回答	7	2.0%
合計		356	100.0%



※択一式の設問は円グラフにて、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示しています。



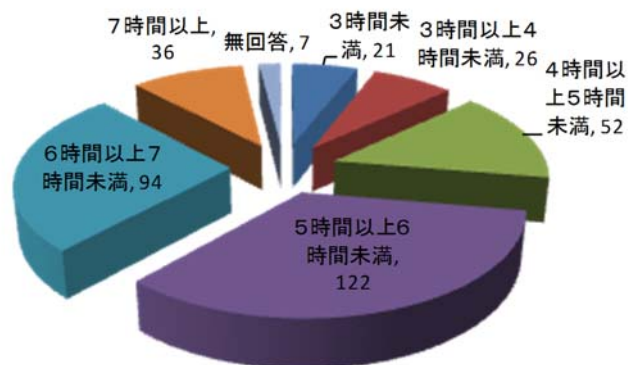
## 悩み・健康について

### Q.3.1 普段の睡眠時間はどのくらいですか？

昨年度までと同様に「5時間以上6時間未満」の割合が34.1%と最も高かった。厚生労働省の調査によると、成人の睡眠時間は6.5時間～7.5時間がボリュームゾーンである。

	睡眠時間について	人数	構成比
1	3時間未満	21	5.9%
2	3時間以上4時間未満	26	7.3%
3	4時間以上5時間未満	52	14.5%
4	5時間以上6時間未満	122	34.1%
5	6時間以上7時間未満	94	26.3%
6	7時間以上	36	10.1%
	無回答	7	2.0%
	合計	358	100.0%

り、約1/3の人がここに属しているという。ここから本結果を比較すると、本学の学生には睡眠時間が短い人が多いと言える。



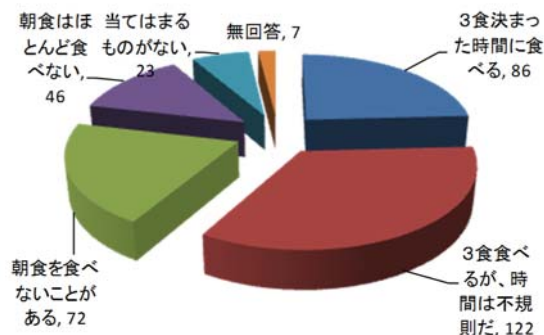
※択一式の設問は円グラフにて、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示しています。

### Q.3.2 自分の食生活について一番あてはまるものは何ですか？

これも前回調査時までと同様に「3食食べるが、時間は不規則だ」の割合が34.3%と最も高かったが、前回調査時よりは7.5ポイント減少し、「3食決まった時間に食べる」が9.3ポイント増加した。本学では学生の指導の一環として食

育にも力を入れており「ひとり暮らしのための料理教室」（自宅生でも参加可能）や100円朝食キャンペーンを定期的で開催している。

	食生活について1番あてはまるもの	人数	構成比
1	3食決まった時間に食べる	86	24.2%
2	3食食べるが、時間は不規則だ	122	34.3%
3	朝食を食べないことがある	72	20.2%
4	朝食はほとんど食べない	46	12.9%
5	当てはまるものがない	23	6.5%
	無回答	7	2.0%
	合計	356	100.0%



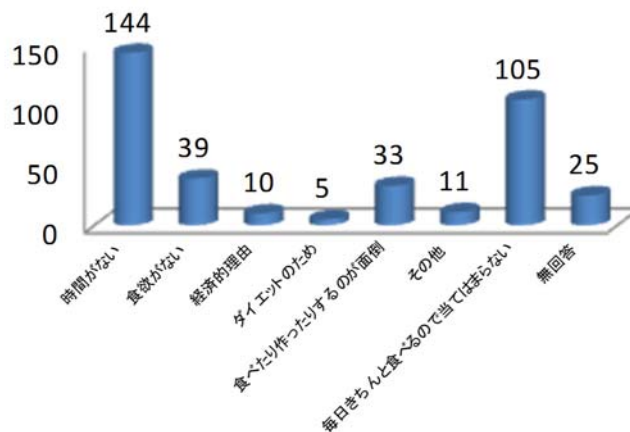
※択一式の設問は円グラフにて、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示しています。

### Q.3.3 朝食を食べないことがある場合、その理由は？ ※複数回答可

朝食を食べないことがある場合の理由については、前回までと同様「時間がない」を選択する学生が最も多かった。しかし、これは起床時間を早めることで解決できる問題であ

り、朝食の有用性についてもさることながら、社会人になってから必要とされる自己管理についても意識づけしていく必要があるだろう。

	朝食を食べないことがある場合、その理由は？	人数
1	時間がない	144
2	食欲がない	39
3	経済的理由	10
4	ダイエットのため	5
5	食べたり作ったりするのが面倒	33
6	その他	11
7	毎日きちんと食べるので当てはまらない	105
	無回答	25
	合計	372



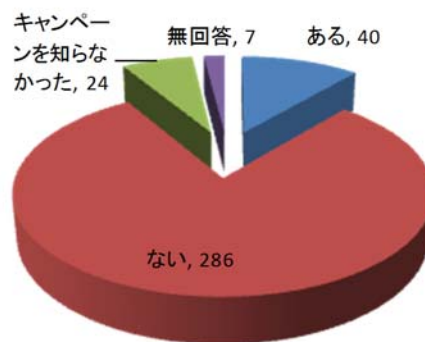
※択一式の設問は円グラフにて、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示しています。

### Q.34 定期的に実施している朝食キャンペーンを利用したことがあるか？

今年度から追加した項である。キャンペーンを利用していない、またキャンペーン自体を知らなかった学生が8割を占めていた。M-Portや掲示にて告知を行っているが、今後利

用者増に向けて定期的に広報したい。

	本学で定期的 to 実施している100円朝食キャン	人数	構成比
1	ある	40	11.2%
2	ない	286	80.1%
3	キャンペーンを知らなかった	24	6.7%
	無回答	7	2.0%
	合計	357	100.0%



※折一式の設問は円グラフにて、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示しています。

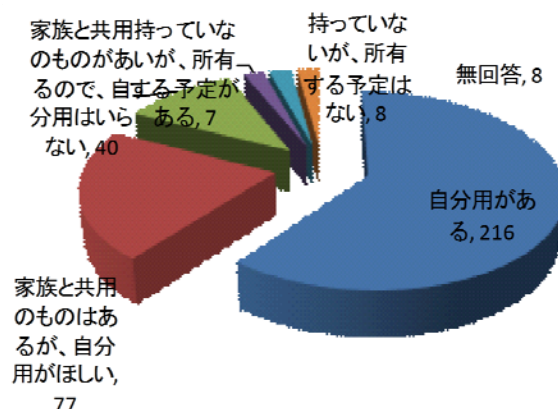
## 情報関連について

### Q.35 パソコンを持っていますか？

今回も「自分用がある」の割合が60.7%と高い割合となり、前回調査と比べると6.6ポイント増加している。しかし、約2割の学生が自分用のパソコンが欲しいにも関わら

ず、所有できていない状況である。

	パソコン保有状況	人数	構成比
1	自分用がある	216	60.7%
2	家族と共用のものがあるが、自分用がほしい	77	21.6%
3	家族と共用のものがあるので、自分用はいらない	40	11.2%
4	持っていないが、所有する予定がある	7	2.0%
5	持っていないが、所有する予定はない	8	2.2%
	無回答	8	2.2%
	合計	356	100.0%



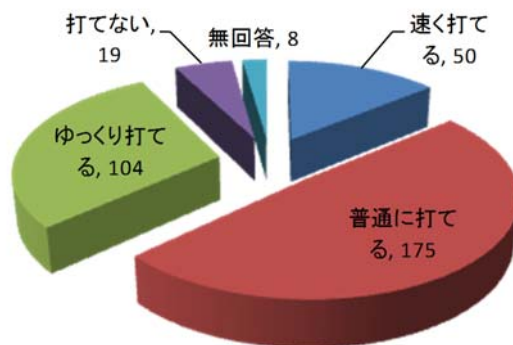
※折一式の設問は円グラフにて、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示しています。

### Q.36 タイピング能力はどの程度ですか？

前回までと同様「普通に打てる」の割合が49.2%と最も高い割合となった。レポートや授業内プレゼンテーション資料の作成など、学習面での利用頻度の増加だけでなく、SNSやインターネットなどの趣味においてもタイピングの機会が

大幅に増加していることが要因であろう。「打てない」の割合は5.3%となり、ほぼ全ての学生が修得できていると見ていいだろう。

	ワープロ習得状況	人数	構成比
1	速く打てる	50	14.0%
2	普通に打てる	175	49.2%
3	ゆっくり打てる	104	29.2%
4	打てない	19	5.3%
	無回答	8	2.2%
	合計	356	100.0%



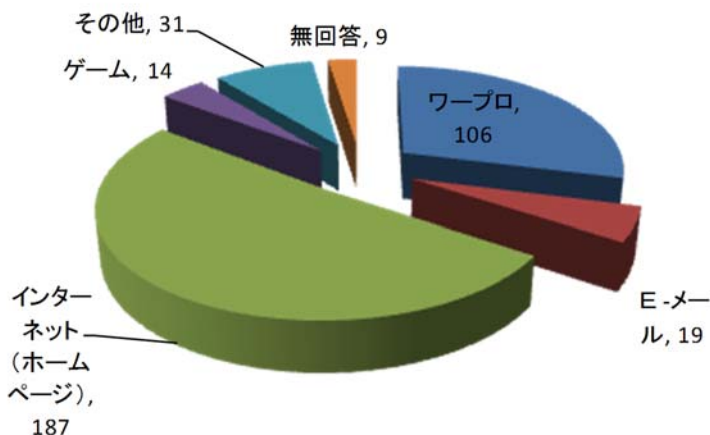
※折一式の設問は円グラフにて、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示しています。

### Q.37 パソコンをどんな目的で使いますか？

パソコンの利用目的については、前回までの調査と同様に「インターネット（ホームページ）」の割合が51.1%と

最も高い割合を占めた。続いてワープロが29.0%と続くのも同様である。

	パソコンの主たる利用目的	人数	構成比
1	ワープロ	106	29.0%
2	Eメール	19	5.2%
3	インターネット（ホームページ）	187	51.1%
4	ゲーム	14	3.8%
5	その他	31	8.5%
	無回答	9	2.5%
	合計	366	100.0%



※択一式の設問は円グラフにて、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示しています。

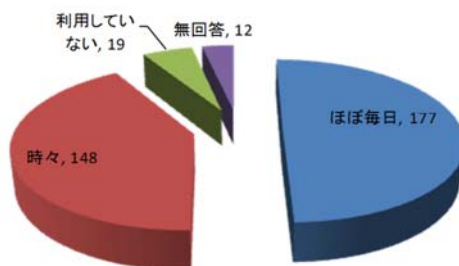
## 情報関連について

### Q.38 インターネットの利用頻度はどのくらいですか？

数年前から無効回答を除くと「ほぼ毎日」「時々」の合計が100%に近い割合となっている。しかし、学内に無線インターネットの環境がないため、今回のアンケート調査の自由記述欄に無線のインターネット環境の導入を求める声の上

がっていた。2011年に無線インターネットを導入したが、利用者数が伸びなかったこともあり、2014年に廃止した経緯もあり、慎重に検討して行きたい。

	インターネットの利用は？	人数	構成比
1	ほぼ毎日	177	49.7%
2	時々	148	41.6%
3	利用していない	19	5.3%
	無回答	12	3.4%
	合計	356	100.0%



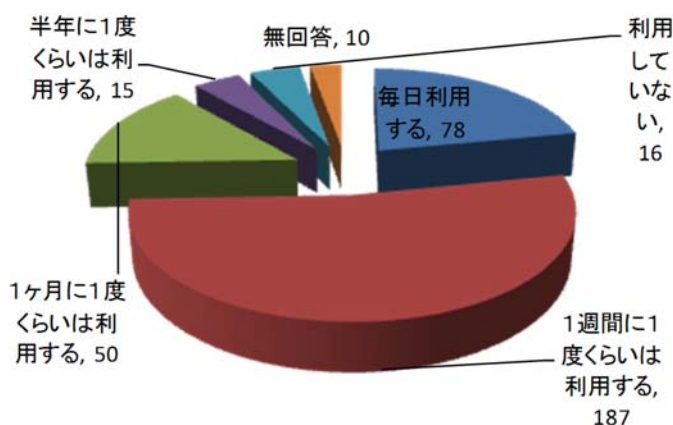
※択一式の設問は円グラフにて、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示しています。

### Q.39 本学のホームページを利用しますか？

本設問では、2011年度よりWeb履修登録やポータルサイトの運営（M-Port）が始まったことで、利用頻度の大幅な向上が見られた。今回調査で、「毎日利用する」の割合が11.3ポイント増加した。「一週間に一度くらいは利用す

る」の割合が52.5%という高い水準を維持するなど、閲覧率向上が見られた。

	本学のホームページを利用していますか？	人数	構成比
1	毎日利用する	78	21.9%
2	1週間に1度くらいは利用する	187	52.5%
3	1ヶ月に1度くらいは利用する	50	14.0%
4	半年に1度くらいは利用する	15	4.2%
5	利用していない	16	4.5%
	無回答	10	2.8%
	合計	356	100.0%

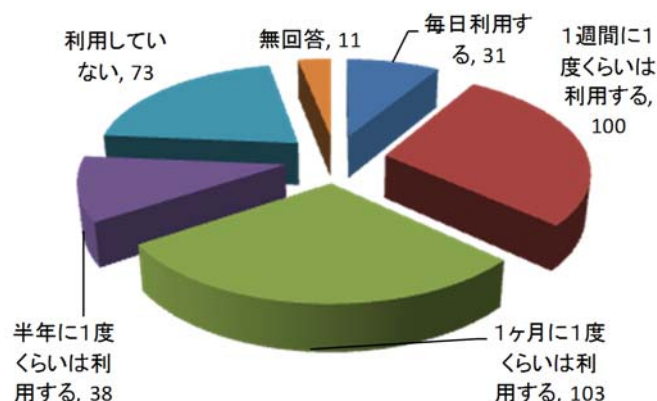


※択一式の設問は円グラフにて、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示しています。

## Q.40 情報センターの自習室（PCロビー室含）をどのくらい利用しますか？

前回調査とほとんど変化がみられない結果となった。前回調査と比べて、「1ヶ月に1度くらいは利用する」の割合が28.9%と最も高く、次いで「1週間に1度くらいは利用する」が28.1%となっている。

情報センター自習室（PCロビー含）の利用	人数	構成比
1 毎日利用する	31	8.7%
2 1週間に1度くらいは利用する	100	28.1%
3 1ヶ月に1度くらいは利用する	103	28.9%
4 半年に1度くらいは利用する	38	10.7%
5 利用していない	73	20.5%
無回答	11	3.1%
合計	356	100.0%



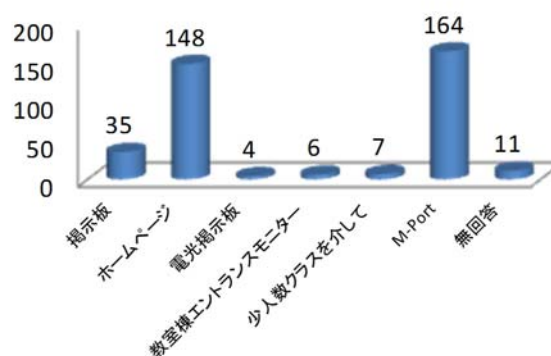
※択一式の設問は円グラフにて、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示しています。

## 情報関連について

### Q.41 本学からの情報はどこで取得していますか？ ※複数回答可

情報の取得先としてホームページが最も多かったが、ついにM-Portと答えた回答数がそれを上回った。閲覧については、スマートフォンやパソコンを所有していない学生のために、教務課や学生支援課窓口でM-Port専用端末の設置を行うなど、措置を講じている。

本学からの情報はどこで取得していますか？	人数
1 掲示板	35
2 ホームページ	148
3 電光掲示板	4
4 教室棟エントランスモニター	6
5 少人数クラスを介して	7
6 M-Port	164
無回答	11
合計	375



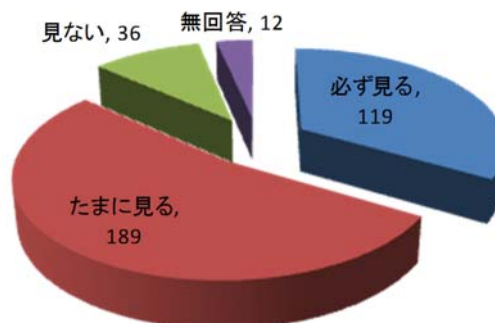
※択一式の設問は円グラフにて、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示しています。

### Q.42 本学から送信されたメールは見ていますか？

M-Port導入によって一斉メールが段階的に廃止されることとなり、学生全体に送るメール量は減少しているが、「必ず見る」の割合は増加した。

本学から送信されたメールは見ていますか？	人数	構成比
1 必ず見る	119	33.4%
2 たまに見る	189	53.1%
3 見ない	36	10.1%
無回答	12	3.4%
合計	356	100.0%

「必ず見る」の割合は増加した。



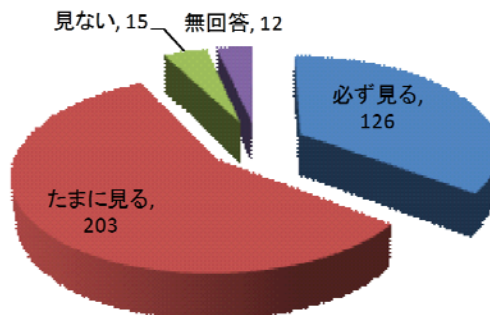
※択一式の設問は円グラフにて、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示しています。



### Q.43 M-Portのお知らせは見えていますか？

「必ず見る」、「たまに見る」の合計が9割を超えており、M-Portも定着したといえる。

	M-Portのお知らせは見えていますか？	人数	構成比
1	必ず見る	126	35.4%
2	たまに見る	203	57.0%
3	見ない	15	4.2%
	無回答	12	3.4%
合計		356	100.0%



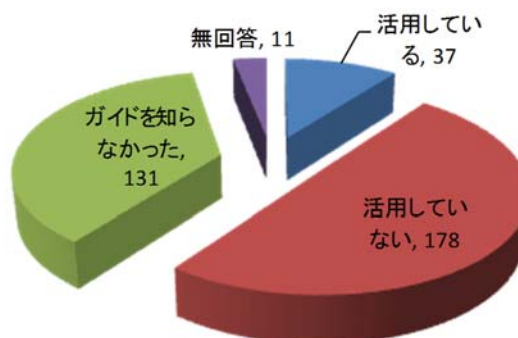
※折一式の設問は円グラフにて、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示しています。

### Q.44 Campus Guide（大学HP掲載の学生生活に関わる総合ガイド）を活用していますか？

新入生が大学生活に早く馴染めるよう、新入生向けの「Campus Guide」を本学HPにて公開しているが「活用していない」、「ガイドを知らなかった」併せて8割を

超える結果となった。本結果を踏まえ、より認知し活用してもらえる方法を検討していきたい。

	Campus Guideを活用していますか？	人数	構成比
1	活用している	37	10.4%
2	活用していない	178	49.9%
3	ガイドを知らなかった	131	36.7%
99	無回答	11	3.1%
合計		357	100.0%

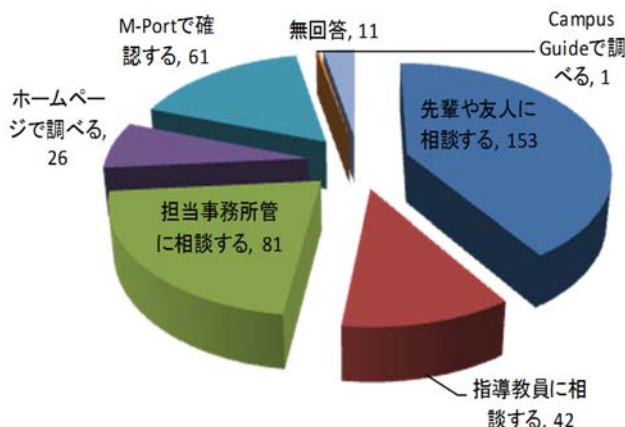


※折一式の設問は円グラフにて、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示しています。

### Q.45 学生生活の中で、どのような手続きをすべきかわからないことがあった場合、どう対処していますか？

Q23と同様に身近な存在である「先輩・知人」に相談する割合が多い結果となった。本学側の情報発信方法の参考としていきたい。

	学生生活の中で、どのような手続きをすべきかわからないことがあった場合、どう対処していますか？	人数	構成比
1	先輩や友人に相談する	153	40.8%
2	指導教員に相談する	42	11.2%
3	担当事務所に相談する	81	21.6%
4	ホームページで調べる	26	6.9%
5	M-Portで確認する	61	16.3%
6	Campus Guideで調べる	1	0.3%
99	無回答	11	2.9%
合計		375	100.0%



※折一式の設問は円グラフにて、複数回答可能な設問は棒グラフにより回答数を示しています。

### Q.46 大学に対する要望はありますか？

例年と同様に通学バスの増便など、交通の便を良くしてほしいという意見が出た。今回も喫煙について多くの意見が寄せられ、喫煙スペースの増設要望や歩きタバコを含む、指定喫煙場所以外での喫煙に対する意見が出た。今年度新たに、喫煙コーナーに関する掲示を増設したが引き続き、喫煙やタバコの吸殻のポイ捨てなどについてはマナーキャンペーンを実施するなど啓発活動が必要である。

その他には学内にて、無線インターネット環境（wifi）の制度導入を求める声も多く上がった。Q.38に制度についての記載あり。次年度より聖ヨハネホール付近、図書館1～3F

の自習スペース、聖バルナバ館3F（大学生協）の3箇所にて無線インターネット環境を導入する予定である。



